

横查情報月報



2022
5055

11月
目

横浜市衛生研究所

令和4年11月号 目次

【検査結果】

食品中の動物用医薬品検査結果（令和4年4月～9月）	1
---------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年10月）	3
------------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和4年10月）	5
-----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

食品中の動物用医薬品検査結果（令和4年4月～9月）

動物用医薬品は動物の疾病の治療、予防及び発育促進の目的で使用されています。畜水産食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は動物用医薬品について残留基準を設定しています。

当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。今回は、健康福祉局食品専門監視班が令和4年4月、7月及び9月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。

4月には、牛の筋肉3検体、豚の筋肉3検体、牛の脂肪3検体及び豚の脂肪3検体の計12検体について、検査を行いました。7月には、すずき目魚介類3検体（マダイ1検体及びブリ2検体）、さけ目魚介類2検体（ギンザケ2検体）、エビ3検体及びうなぎ蒲焼2検体の計10検体について検査を行いました。また、9月には、牛の筋肉6検体、豚の筋肉1検体、鶏の筋肉2検体、牛の脂肪1検体及び豚の脂肪1検体の計11検体について、検査を行いました。

その結果、表1及び表2に示すとおりブリ1検体からオキシテトラサイクリン0.02ppmを検出しましたが、すずき目魚類の基準値(0.2ppm)を下回っていました。その他の項目は全て不検出でした。

表1 畜産物の筋肉及び魚介類等の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果							検出限界
	畜産物の筋肉			魚介類及び魚介類加工品				
	牛筋肉 (9検体)	豚筋肉 (4検体)	鶏筋肉 (2検体)	すずき目 (3検体)	さけ目 (2検体)	エビ (3検体)	うなぎ蒲焼 (2検体)	
【合成抗菌剤】								
ニトロフラントイン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
マラカイトグリーン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ロイコマラカイトグリーン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファクロルピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファセタミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファチアゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	0.01
スルファドキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファベンズアミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01

表1(続き) 畜産物の筋肉及び魚介類等の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果							検出限界
	畜産物の筋肉			魚介類及び魚介類加工品				
	牛筋肉 (9検体)	豚筋肉 (4検体)	鶏筋肉 (2検体)	すずき目 (3検体)	さけ目 (2検体)	エビ (3検体)	うなぎ蒲焼 (2検体)	
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモイルダプソン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルフィゾゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルフィソミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナイカルバジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピリメタミン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ミロサマイシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
【抗生物質】								
OTC、CTC及びTCの和 *	-	-	N.D.	-	-	-	-	0.02
オキシテトラサイクリン	-	-	-	0.02	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.005
【寄生虫用剤】								
フルベンダゾール	-	-	N.D.	-	-	-	-	0.002
レバミゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01

単位:ppm N.D.:不検出 -:実施せず

*:オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの和

表2 畜産物の脂肪の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果		検出限界
	牛脂肪 (4検体)	豚脂肪 (4検体)	
【寄生虫用剤】			
イベルメクチン	N.D.	N.D.	0.005
エプリノメクチン	N.D.	N.D.	0.005
ドラメクチン	N.D.	N.D.	0.005
モキシデクチン	N.D.	N.D.	0.005

単位:ppm N.D.:不検出

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年10月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和4年10月のアクセス件数、アクセス順位、追加・更新記事について報告します。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和4年10月の総アクセス数は、240,180件でした。前月に比べ14.3%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*83.0%、保健情報10.1%、検査情報月報1.8%、食品衛生1.7%、薬事1.3%、生活環境衛生1.1%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

表1 令和4年10月 アクセス順位

順位	前月比	タイトル	件数
1	↑	EBウイルスと伝染性単核症について	13,382
2	↑	ぎょう虫(蟯虫)症について	12,813
3	→	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	12,787
4	↑	トキソプラズマ症について	11,781
5	↑	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	8,271
6	↑↑	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	7,867
7	↑	サイトメガロウイルス感染症について	7,119
8	↑↑	粉ミルク(乳児用調整粉乳)を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか?	6,202
9	↓	手足口病について	5,379
10	↑↑	ライノウイルスについて	4,481

「EBウイルスと伝染性単核症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/ebv1.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/sa/chicken1.html>

2 追加・更新記事

令和4年10月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表2)。

表2 令和4年10月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
10月 3日	感染症に気をつけよう(10月号)	掲載
10月 7日	熱中症情報(2022年10月7日)	掲載
	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第10回)	更新
10月14日	インフルエンザ	更新
10月21日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第11回)	更新
10月25日	手足口病について	更新
10月31日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第12回)	更新
	感染症に気をつけよう(11月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年10月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第31週をピークに減少傾向でしたが、第40週より横ばいが続いており、今後の動向に注意が必要です。10代を始めとする若い世代を中心に、幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒や性器クラミジア感染症など、性感染症が高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

<10月期に報告された全数把握疾患>

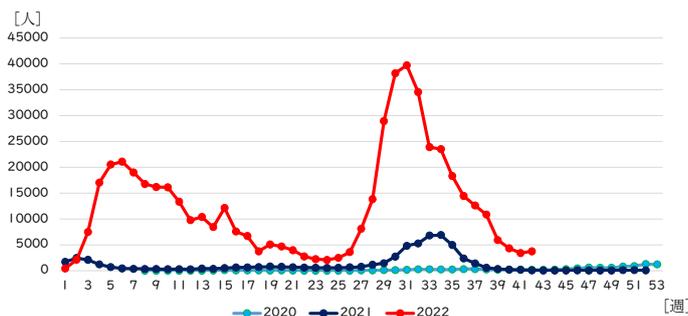
腸管出血性大腸菌感染症	13件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
E型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
日本紅斑熱	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
アメーバ赤痢	1件	水痘(入院例に限る)	2件
ウイルス性肝炎	2件	梅毒	15件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	百日咳	1件

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～60歳代で、O157が8件、O26、O103、O128、O146が1件ずつ、O不明が1件報告されました。経口感染と推定される報告が2件、接触感染と推定される報告が1件、経口感染または接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が9件です。
- 2 **E型肝炎**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 3 **日本紅斑熱**:70歳代で、国内での動物・蚊・昆虫からの感染と推定されています。
- 4 **レジオネラ症**:50歳代～70歳代で、水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 5 **アメーバ赤痢**:60歳代で、感染経路等不明です。
- 6 **ウイルス性肝炎**:B型肝炎(50歳代および60歳代)の報告が2件ありました。性的接触による感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が1件です。
- 7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:50歳代～90歳代で、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- 8 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:70歳代で、孤発性です。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:50歳代で、血清群はB群、感染経路等不明でした。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:50歳代で、無症状病原体保有者、性的接触(同性間)による感染と推定されています。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回1件、接種歴不明4件)の報告が5件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 12 **水痘(入院例に限る)**:20歳代および90歳代(ワクチン接種歴無1件、接種歴不明1件)の報告が2件ありました。1件は飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 13 **梅毒**:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。いずれも性的接触(異性間13件、同性間1件、詳細不明1件)による感染と推定されています。
- 14 **百日咳**:40歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。

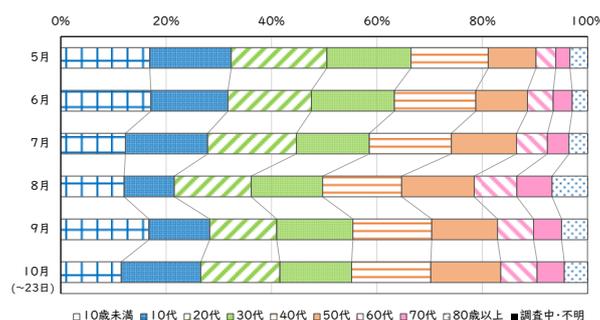
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第39週～第42週に横浜市から報道発表がありました症例は17,391件でした。

- ◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移



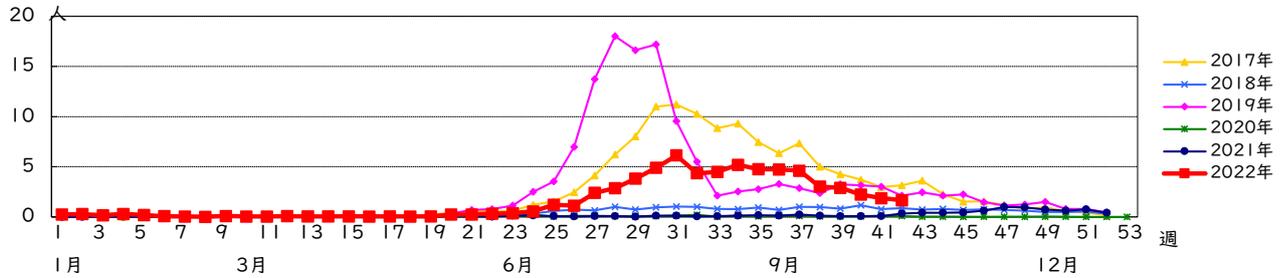
2 年齢層別患者割合

※ 2022年9月26日より集計方法を変更しています。

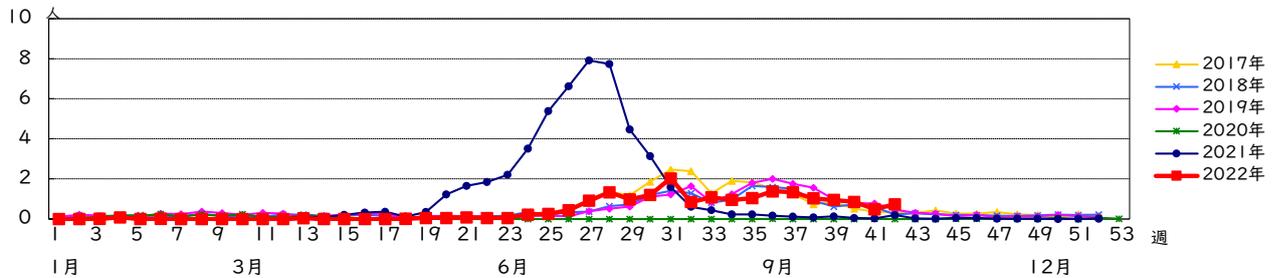
報告週対応表	
第39週	9月26日～10月2日
第40週	10月3日～10月9日
第41週	10月10日～10月16日
第42週	10月17日～10月23日

◇ 定点把握の対象

- 1 手足口病： 第20週以降増加が続き、第31週は6.14で、流行警報発令基準値5.00を上回りました。
第39週2.90、第40週2.23、第41週1.86、第42週1.66と減少し、終息基準値を下回りました。



- 2 RSウイルス： 第24週以降増加が続き、第31週に2.03でピークを迎えましたが、第39週0.95、第40週0.86、第41週0.50、第42週0.74と高めで推移しています。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:33件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:6件	淋菌感染症	男性:22件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第39週	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.33	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月期(2022年第39週～第42週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、眼科定点2件、基幹定点2件、定点外医療機関からは1件でした。

11月4日現在、表に示したライノウイルス、コクサッキーウイルスA6型、エンテロウイルスD68型、RSウイルスサブグループA、ヒトパラインフルエンザウイルス1型、ヒトメタニューモウイルスの遺伝子が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第39週～第42週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	手 足 口 病
ライノウイルス	-	3	-
コクサッキーウイルス A6型	2	-	1
エンテロウイルス D68型	1	-	-
RSウイルスサブグループA	1	-	-
ヒトパラインフルエンザウイルス1型	1	-	-
ヒトメタニューモウイルス	-	1	-
合 計	5	4	1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

10月期(2022年第39週～第42週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点から侵襲性肺炎球菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌1件、クロストリジオイデス ディフィシル1件でした。非定点からの依頼は、ジフテリア菌1件、非結核性抗酸菌1件、サルモネラ属菌1件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌12件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、侵襲性肺炎球菌1件、でした。

「分離同定」の検査依頼は、非定点からライム病3件、保健所からレジオネラ属菌4件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は腸炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2022年第39週～第42週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
	侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 15型 (2)		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Citrobacter freundii</i> (1)		
基幹定点	劇症型溶血性レンサ球菌	1	B群溶血性レンサ球菌 (1)		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)		
医療機関	クロストリジオイデス ディフィシル	1	<i>Clostridioides difficile</i> (1)		
	ジフテリア菌	1	<i>Corynebacterium diphtheriae</i> (1) (ジフテリア毒素遺伝子 : 陰性)		
非定点	非結核性抗酸菌 (NTM)	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1)		
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> 04 : i : - (1)		
	腸管出血性大腸菌	12	0157 : H7 VT1 VT2 (7)、0157 : H7 VT2 (2)、 026 : H11 VT1 (1)、026 : H- VT1 VT2 (1)、 0146 : H- VT2 (1)		
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	6	<i>Klebsiella aerogenes</i> (2)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Citrobacter freundii</i> (2)		
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> UT (1)		
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
	血清		1	抗ボレリア抗体 IgG : ボーダーライン、IgM : 陰性 (1)	
医療機関	非定点	全血	ライム病 (ボレリア)	1	RealtimePCR ライム病ボレリア、回帰熱群ボレリア 陰性 (1)
		痂皮		1	RealtimePCR ライム病ボレリア、回帰熱群ボレリア 陰性 (1)
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2)、培養陰性 (2)	
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	直腸ぬぐい	腸炎	1	消化器系病原菌 陰性 (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】